



平成 28 年 3 月 22 日

各 位

会社名 株式会社テ・ウエスタン・セラピ°テクス研究所  
代表者名 代表取締役社長 日高 有一  
(コード番号:4 5 7 6)  
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也  
TEL 0 5 2 - 2 1 8 - 8 7 8 5

## 緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」の 国内第 I 相臨床試験開始並びにマイルストーン受領のお知らせ

当社が創製した緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」につき、ライセンスアウト先のおかもと製薬株式会社(以下、「おかもと製薬」)が、緑内障・高眼圧症を適応症とした国内第 I 相臨床試験(以下、「本試験」)を開始されましたのでお知らせいたします。

本剤は、各種プロテインキナーゼ<sup>(注1)</sup>を阻害する他に、熱ショックタンパク質<sup>(注2)</sup>の Hsp90 に結合することが確認されており、その結果、線維柱帯-シュレム管を介して主流出路からの房水流出を促進し眼圧を下降させることが示唆されております。

これまでの非臨床試験結果より、ヒトへの投与が可能であると判断されましたので、本試験では単回投与時、反復投与時における健康成人を対象とした本剤の安全性及び薬物動態について評価いたします。

当社は本試験開始に伴い、おかもと製薬から契約に基づくマイルストーンを受領いたします。

また、本試験開始に伴い、開発コードを「H-1129」から、おかもと製薬の開発コード「WP-1303」に変更いたしました。

なお、本件は平成 28 年 12 月期連結業績予想に織り込み済みであり、連結業績予想に変更はございません。

### WP-1303 (H-1129) について

プロテインキナーゼ阻害剤<sup>(注3)</sup>を中心とする当社化合物ライブラリー<sup>(注4)</sup>のリード化合物を基にして最適化された、緑内障・高眼圧症を適応症とする開発品で、平成 25 年 12 月より非臨床試験が進められておりました。

以 上

## 用語解説

### (注1) プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー化合物)等、生体においてエネルギーの元となる低分子物質等のリン酸基を、タンパク質分子に転移する(リン酸化)酵素です。一般にリン酸化を触媒する酵素をキナーゼと呼び、特にタンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと言います。

### (注2) 熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇することで細胞を保護するタンパク質の一群であり、「Hsp90」などのように、それぞれの分子がその分子量に基づいて名づけられています。

### (注3) 阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

### (注4) 化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有しており、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。